

村上税務署長賞

『当たり前を守り続ける』

村上市立荒川中学校 3年

橋本 莉名 さん

「税金なんて私たち中学生に関係がない」租税教室で税について考える前、私は税についての知識も興味もなく、正直大人たちはなぜ税金を納め続けるのだろうかという疑問に思っていました。そんな時、税理士の方から税金についてのお話を伺う機会があり、私は税金というもの大切さに気づかされました。今私がこうして当たり前のように学校へ通い、授業を受けることができるのは多くの方が納めた税金のおかげなのだ実感しました。



私たち中学生の一人あたり、年間約百万円、一日約五千円の教育費が使われています。私が何気なく過ごした一日に大人たちの納めた五千円が使われているのです。私はまだ中学生なので、税金を払う義務はありません。ですが、その分一日一日の学校生活を大切にして、授業を真面目に受け、中学生がやるべきことを毎日続けていこうと思います。

今回の新型コロナウイルスでも、個人や法人に向けての補助金・給付金、政府からの布マスクの配布など、多額の税金が使われました。多くの企業が大打撃を受けた中で、この国からの支援にはたくさんの方が助けられたと思います。

いつ何が起こるかなんて誰にもわかりません。だからこそ、今回のような感染症のパンデミックや災害が起こり、個人の力ではどうにもできないことにこそ税金の力が必要なのだと思います。

現在、日本は少子高齢化により、年金や医療介護などの社会保障費が増加しつつあります。一方でその費用を負担する働き手はどんどん減少していきます。近い将来、私たちが働き、費用を負担することになります。年少者が減っていく未来で、日本の社会はどうなってしまうのでしょうか。日本の社会が崩壊してしまう前に、何か対策をしなければなりません。そこで私は消費税率を今よりさらに引き上げることを提案します。消費税は働く世代のみならず、全ての人が払う公平な税金で、社会保障の財源を調達する手段としてふさわしい税金です。将来世代への負担の先送りを減らし、全世代の安定した社会の実現には消費税率を引き上げることが一番だと思うからです。将来私たちが社会を担う時代が来た時にも持続可能な日本の社会を守り続けるために、このことを提案します。

あと何年かすれば私も税を納める立場になります。そのときに、払う意味もわからずに税金を払い続けるのではなく、私たちの当たり前を守るために、意味があって納めることを忘れないようにしたいです。

